

## I-5. 研究者のための「リスクコミュニケーション案内」の制作

### Handbook of Risk Communication for Researchers

 <b>キーワード</b> <b>Key Word</b>	リスクコミュニケーション、科学コミュニケーション、科学と社会、対話
	Risk Communication, Science Communication, Science and Society, Dialogue

#### 1. 調査の目的

文部科学省科学技術・学術審議会計画・評価分科会に安全・安心科学技術及び社会連携委員会が設置された(平成 25 年 3 月)。同委員会は、リスクコミュニケーションの推進方策に関する検討作業部会を設置し、我が国のリスクコミュニケーションのあり方について議論し、「リスクコミュニケーションの推進方策」(平成 26 年 3 月)を取りまとめた。同推進方策を踏まえて、文部科学省は学協会や研究機関を対象とした科学技術人材育成補助事業「リスクコミュニケーションのモデル形成事業(学協会型、機関型)」を開始した(平成 26 年 6 月)。

また、「第 5 期科学技術基本計画」(平成 28 年 1 月)では、リスクコミュニケーションを包含する形で社会の多様なステークホルダーとの対話と協働を進める共創的科学技術イノベーションの推進が記載された。

自然科学分野の研究者が主体的にリスクコミュニケーションを行うことが求められる一方で、実践者が気軽に参照できる日本語のテキストは限られており、リスクコミュニケーション、共創的科学技術イノベーションを推進する妨げとなっている。

本調査では、文部科学省が、自らの研究をめぐるリスクコミュニケーションについて考え、実践する自然科学分野の研究者を支援するため、リスクコミュニケーションの基本概念、関連する領域、実践のポイント、類似の事例について整理し、傍らに置いて気軽に参照できる「リスクコミュニケーション案内」としてまとめた。

#### 2. 調査研究成果概要

##### (1) 調査の構造

本調査研究は大きく4つの項目からなる。

- ① 基本概念
  - ・リスクについて
  - ・リスクコミュニケーションについて
  - ・リスクコミュニケーションを俯瞰する
- ② 関連する領域
  - ・リスクガバナンスとの一体性
  - ・イノベーションとの一体性
  - ・行動変容が重視されるリスクコミュニケーション
- ③ 実践のポイント
  - ・全体を俯瞰し、デザインする
  - ・テーマ・対象を設定する
  - ・文脈の中で考える
  - ・生活者の視点で考える
  - ・対話の場をつくる
  - ・評価し、社会へ接続する
- ④ 事例集紹介

## (2) 調査の内容・主な成果

### ① 基本概念

- ・ リスクやリスクコミュニケーションの概念は、対象となるリスクを扱う分野ごとに異なり、初学者を混乱させる要因となっているため、分野横断的に整理し、俯瞰的な把握を可能にした。
- ・ コミュニケーションとガバナンス、イノベーションとの関係、リスクコミュニケーションと科学コミュニケーション、アウトリーチとの関係を整理し、関連概念との整合を図った。
- ・ つかみどころのないコミュニケーションを分節化して考えられるように、テーマ・対象、フェイズ、知識の不定性、時間・空間・社会スケール、ステークホルダー(関与者)、目的/機能、モードを軸とする科学コミュニケーションの分類枠組みを掲載した。

### ② 関連する領域

- ・ テクノロジーアセスメント、レギュラトリーサイエンス、科学的助言について整理し、コミュニケーションとガバナンスを一体的に把握できるように配慮した。
- ・ 学術コミュニケーション、オープンサイエンス、サイエンスショップ・CBR、シティズンサイエンスについて整理し、さまざまな局面でコミュニケーションとイノベーションが一体的に展開されていくことに注意を促した。
- ・ 行動変容が重視される防災教育は、先端技術をめぐるリスクコミュニケーションとは性質を異にする点を指摘した。

### ③ 実践のポイント

- ・ コミュニケーションのPDCAサイクルを提示し、全体を俯瞰し、デザインする視点を提案した。
- ・ 議題構築、フレーミング、リスク認知の多元性、事前警戒原則(予防原則)について整理し、テーマ・対象を設定する際の留意点を示した。
- ・ ELSI、デュアルユースについて整理し、文脈の中で考える視点を提示した。
- ・ 生活者としての視点、アフォーダンス、ヒューリスティックス、社会の視点と個人の視点、リスク比較について整理し、研究者が忘れがちな生活者の視点で考える重要性を指摘した。
- ・ 双方向性、参加、ジェンダー、社会的弱者、信頼に配慮した対話の場をつくることが不可欠であることを明示した。
- ・ リスクコミュニケーションの評価、テクノクラシーとデモクラシー、エコシステムの醸成、科学と社会の対話の場について整理し、リスクコミュニケーションを社会へ接続する視点を導入した。

### ④ 事例集紹介

類似の事例を検索することができるように、国、独立行政法人、大学、企業が作成したさまざまなコミュニケーションに関する報告書やデータベースを掲載した。